

## 飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

### 第 403 回 宏純さんとの思い出

2011.2.6

熊谷にある「八木橋百貨店」前社長の八木橋宏純さんが、この1月にご逝去された。

このご時世、あまりにも若すぎる満67歳と10ヶ月のご生涯だった。

八木橋百貨店は埼玉県内初の百貨店として開業し、今年で創業114年を数える老舗百貨店である。熊谷市内で最大の店舗面積を持ち、熊谷人の自慢の一つでもある。消費低迷で深刻な販売不振にあえぐ百貨店業界では、2010年中に昨年を上回る計9店舗が閉鎖、地方デパートでは倒産も相次いで起こっている。

そんな中八木橋百貨店は、「地域から愛されるお店」として根強い人気を誇り、この地域唯一のデパートとして、地元民からすれば「三越」や「高島屋」の包装紙より価値あるブランドとして定着している。



そのブランドは、信じられない逸話を作った。昭和55年、小売業界の雄であった「ダイエー」の熊谷進出（熊谷駅ビル「ニッソーモール」の核店舗として出店、2002年閉店）時には、「八木橋が大変」という噂話で持ちきりになり、八木橋を応援しようとする人達が殺到して店内は大混雑したという。

その後平成12年、当店から数百メートル先の至近に「熊谷サティ」が開業した時も、商店街連合会や消費者代表まで、八木橋擁護に動き、当時の通産省が驚いていたこと、思い出される。さらに同一商圏内の太田（群馬県）には、イオンモールが開業した等で競争は激化しているものの、「八木橋神話」は微動だにせず、特に悪影響はなく堅調な業績を維持し続けている。

言ってみればこの両事件、我、飯島家と深い因縁がある。

「ダイエー事件」の時は、当時の大店法に基づき商調協（商業活動調整協議会）が設置され、

私の父飯島岱蔵が専門家委員（学識経験者）として就任していた。  
相対するは宏純さんのお父さん、  
八木橋本次郎さんであった。  
無言電話と、夜中に玄関のブザーが鳴るたびに飛び起き、  
誰もいないのを確認し...そんな毎日に、寝不足が続いた。  
「オヤジは一体、何をやったのか...」  
中小企業診断士登録して5年目の私には、  
激しすぎる実務の世界に、  
ただただ驚愕するだけだった。

「サティ出店時」はすでに大店法は廃止、  
新たな「街づくり3法」の元で、  
やはり商工会議所内に大型店の出店を調整する諮問機関  
「意見集約会議」が設置され、  
その専門家委員を私が務めた。  
上記の通り、当然意見は対立。  
当時、委員長を務めた弁護士までが「サティ出店阻止」を掲げ、  
連日、喧々諤々の論議を繰り返したのを、  
はっきり覚えている。  
その中心にいたのが八木橋宏純さんだった。  
宏純さん 57 歳、私が 49 歳の時である。

最初の結審は、意見集約ならず。  
11 人の委員中、出店反対が 9 人、条件付賛成が 1 人、棄権 1 人という状況だった。  
条件付で賛成は私、棄権 1 は、確か県職 O B の学識経験者と記憶している。

**サティから何ぼ貰った、  
八木橋の天敵！  
飯島をぶっ潰す！！...なんて物騒な電話も頂いた。  
ダイエー事件の時のオヤジの心境が、やっと分かった。**

廻りではかなりエキサイトした動きも出てきた故、  
県（埼玉県）と国（当事の通産省）がオブザーバーとして加わり、  
何とか意見集約を図り、サティは出店した。  
結果は上記の如く、  
八木橋もサティも堅実な営業を実績することができている。

**「賢二先生、お互い立場があるから...、  
解っていますよ、気にしないで行きましょう」**

そう言いながら、私に微笑みかけてくれた宏純さんの笑顔、  
忘れることのできない、一生の思い出である。  
高校も JC も、  
商工会議所もロータリーも大先輩である宏純さん、  
沢山のご指導を頂き、今はただ、感謝するのみである。

ご冥福を心よりお祈りいたします。

合掌

## 2500 人が遺徳しのぶ 八木橋宏純氏お別れの会

熊谷市の百貨店「八木橋」の代表取締役会長で、1月に亡くなった八木橋宏純氏（享年67）の「お別れの会」が八木橋で2日行われた。約2500人が参列、熊谷の経済、文化面で多大な功績を残した八木橋氏の遺徳をしのいだ。

友人代表の松本光弘熊谷商議所名誉会頭、富岡清熊谷市長らが弔辞を述べた。富岡市長は「高校、大学の大好きな先輩が急にいなくなり、寂しくてならない。温厚篤実で優しい笑顔が思い出され、失ったものの大きさを感している」と語った。熊谷木遣保存会などが野辺の木遣りを披露。参列者が献花を行い、最後の別れを惜しんだ。

八木橋氏は熊谷商工会議所副会頭や熊谷市教育委員長、市国際交流協会会長などを歴任。市内の文化団体などへの助力も惜しまず、百貨店を熊谷の芸術・文化の発信地としてきた。生前の幅広い活動を物語るように、同市在住の俳人の金子兜太氏、日本画家の大野百樹氏、熊谷高校の同窓生でJR東日本の大塚陸毅会長、熊谷市の姉妹都市のニュージーランド・インバーカーギル市の市長らも参列していた。

出典：埼玉新聞 2011年2月3日(木)

<http://www.saitama-np.co.jp/news02/03/10.html>



埼玉新聞より



地域 SNS「あついぞ ホット com」MG1300さんのブログより